

英語科 学習指導案

日 時：平成29年11月1日（水）11：25～

場 所：体育館

学 級：2年A組（男子16名 女子12名）

授業者：小学校 HRT: 友清 美賀子 JTE(小中兼務): 田森 朝水
中学校 JTE: 前田 賢人 ALT: William Deasy

1 単元名 未来の町・KASAHARA開発計画（6／6時）

NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 LESSON 4 に関連した特別単元

2 教材観

(1) 題材について

本単元は、LESSON 5が終了した位置にあり、LESSON 4の終末の活動である「私の町紹介」に関連して、「私の未来の町紹介」をテーマに、特別に設定した単元である。「私の町紹介」では、現在の笠原町の特徴や魅力についてALTの先生に紹介するという活動を設定した。この単元では、未来の笠原町を小学生と共に考え、紹介する。自分の住む町の未来について考えることで、笠原町の魅力について新たな視点から考え、将来を担っていく1人として、どんな町になったらみんなが住みたくなるかを考えることができる単元となっている。

(2) 言語材料について

本単元を中心となる言語材料は以下のとおりである。

- ・ We can ～.
- ・ It has ～.

(3) 表現方法の特徴について

本単元の終末の活動は、小学生との対話を設定したコラボ授業として構想している。そのため、これまで習ってきた言語材料を用いた表現では、小学生に伝わらないことが予想される。そこで、小学生にも伝わる表現に置き換えたり、相手が理解できたかを確認したりする表現が必要になってくると考える。

Lesson 1のUSE Speakでは、対話を継続させるために、質問したり相づちをうったりする表現を学習してきた。例えば、We had a birthday party for Emma. I gave a CD to her.と言った相手に対し、Oh, that's nice! Did you have a good time? と述べたりすることである。また、Lesson 4のUSE Speakでは、会話を広げるために、相手の言ったことを確認する表現を学習してきた。例えば、There is a good curry shop near the station.と言った相手に対し、Oh, a curry shop?と述べたりすることである。本単元の終末の活動では、小学生が相手であるという設定を存分に踏まえ、これまでに学習してきたこれらの表現を実践的に活用することが期待できる。

3 指導観

(1) 指導事項と言語活動

本単元では、「話すこと」の（イ）「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」を中心に指導する。

【指導目標】

関心・意欲・態度	質問を織り交ぜて聞き手を巻き込むように話そうとする。	
技能	話題	未来の笠原町について
	内容	その特徴やその理由を
	言語材料	第2学年Lesson 5までに学習する言語材料を正しく用いて
	表現の方法	聞き手の立場や気持ち、場面や状況に応じた適切な表現を用いて
程度	40語前後、10文程度の正しい英語で話すことができる。	
言語・文化の知識・理解	中学校第2学年Lesson 5までに学習する言語材料について正しく理解している。	

【評価規準（評価方法）】

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化に関する 知識・理解
・質問を織り交ぜて聞き手を巻き込むように話し続けようとする。 (活動の観察)	・聞き手の立場や気持ち、場面に応じて適切な表現を用いて話すことができる。 (活動の観察)	/	・中学校第2学年Lesson 5までに学習する言語材料について正しく理解している。 (活動の観察)

これらの目標・評価規準を具現するために、本単元の終末においては以下のようなコミュニケーションを図る活動を行う。

【言語活動】

〈概要〉

小学生から依頼を受け、小学生2名と中学生2名の4名からなるグループで、1つのテーマに沿った話し合いを通して、未来の笠原町にあったらよいものを考える。

〈前半〉・・・スピーチ的要素

・1つのテーマに沿って自分が考えた未来の笠原町について、写真や絵を示しながら説明する。

〈後半〉・・・即興的要素

・自分が考えた未来の笠原町と小学生が考えた未来の笠原町のよさを取り入れながら、4名で話し合いを進め、最終的な未来の笠原町計画を考える。

未来の笠原町を題材とした理由は、以下のとおりである。

① 中学生にとって身近なテーマである。

→自分たちの住んでいる町について話すため、イメージがしやすい。また、Lesson 4において現在の笠原町についての紹介を行っているので、その学習を土台として考えることができる。

② 生徒たちが意欲をもって取り組むことができる題材である。

→未来の町は、現在の町と違い、自分の想像力を豊かに働かせることができる。

→グループ毎にテーマ性をもたせることで様々な未来の町を生徒同士で交流できる。

③ 小学生と新たなものを創造できる題材である。

→小中コラボ授業という場面の中で、小学生は小学生なりの発想で、また中学生は中学生なりの発想でそれぞれ考えたものを持ち寄り、新たなものを生み出すことに挑戦できる。

単元の終末の言語活動は、前半のスピーチ的要素の強いShow&Tell形式の言語活動と、後半の即興的要素の強いDiscussion形式の言語活動の2つから成っている。これまで生徒たちは終末の活動として町紹介を行ったことがある。そのため、前半部分ではこれまでの学習を生かしながら、特に後半部分の、相手意識に立って対話をしていくという部分に焦点を当てて指導にあたる。

(2) 各指導過程と指導意図

指導すること	指導する意図・ねらい
① 本時のポイントの確認	相手が小学生であることから、何に配慮したらよいかを理解する。
② 考えてきた未来の笠原町について交流	グループの仲間の意見を理解する
③ グループ内のアイデアを取り入れながら、新たな未来の笠原町を計画	中学生が中心となり話し合いを進め、グループ内の意見を取り入れながら新たな笠原町を考える。
④ 未来の笠原町の交流 I	相手の立場や気持ちに応じて、自分の気持ちや意見を伝える
⑤ 中間交流	本時のねらいに迫るための表現を確認し、後半の活動に生かせるようにする。

⑥ 未来の笠原町の交流Ⅱ	中間交流で学んだことを取り入れ、相手の立場や気持ちに応じて、自分の気持ちや意見を伝える
⑦ 振り返り	仲間の良かった姿や表現を紹介し、価値づける。本時のポイントに焦点をあて、学びの伸張を実感させる。

4 生徒観

2年A組の生徒は、英語で話すことに意欲をもち、積極的に話そうとする生徒が多い。

多くの生徒が、スピーチ等のあらかじめ話す内容を決めたことに関しては自信をもって話すことができると感じている。しかし、即興的要素が加わると、半数近くの生徒が苦手意識を感じている。その多くには、「合っているかが分からない。」「間違えたらどうしよう。」という、不安な気持ちが見られる。その要因の1つは、言語材料の定着の不十分さである。今年7月に実施した、英検 IBA の調査では、「語彙・熟語・文法」の分野において、第2学年の正答率は 67.5%であり、正確な表現を十分に身に付けているとは言えないことが分かる。そのため、年度当初から授業の最初に **Small Talk** を位置付け、即興的なやりとりの中で、自分の気持ちや考えを正確に伝える練習をしてきた。その結果、間違えることを恐れず、対話を継続させることができ生徒が増えてきた。また、繰り返す中で、正確な表現も身に付きつつある。

Lesson 4 では、笠原町の魅力について仲間と対話をする活動を行い、前半にスピーチ的要素、後半に即興的要素のある活動を取り入れた。そこでも、自信をもって話すことができる生徒が増えてきている。

本単元も、スピーチ的要素と即興的要素の両方の要素のある活動を仕組んだ。さらに、終末は、小学生に対して伝える活動である。そのため、自分たちが習ってきた表現が伝わらないことが予想される。そんなときに、小学生にどうやったら伝わるかを考え、既習表現を駆使しながらコミュニケーションを行い、相手に伝わったという経験をさせることで、コミュニケーションすることの楽しさを一層味わわせたい。そして、2歳年下である小学生への思いやりが、より強い相手意識を生み出し、フレンドリーな雰囲気の中で、これまで培った力を伸ばしたいと考えている。

<p>単元学習前の生徒の認識 これまでも町紹介はやってきているから、イメージをもつことはできる。ただ、小学生と話し合いをするので、どうやら小学生に伝えることができるだろう。</p>	<p>中心となる指導事項 話すこと (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。</p>	<p>本単元の指導目標 【関】 質問を織り交ぜて聞き手を巻き込むように積極的に話そうとする。 【技】 未来の笠原町についてその特徴やその理由を第2学年 Lesson 5 までに学習した言語材料を正しく用いて聞き手の立場や気持ち、場面や状況に応じて適切な表現を用いて40語前後、8文程度の正しい英語で話すことができる。 【知】 中学校第2学年 Lesson 5 までに学習する言語材料について正しく理解している。</p> <p>【関】 質問を織り交ぜて聞き手を巻き込むように積極的に話そうとする。 【技】 未来の笠原町についてその特徴やその理由を第2学年 Lesson 5 までに学習した言語材料を正しく用いて聞き手の立場や気持ち、場面や状況に応じて適切な表現を用いて40語前後、8文程度の正しい英語で話すことができる。 【知】 中学校第2学年 Lesson 5 までに学習する言語材料について正しく理解している。</p>	<p>言語材料 ・ It has ~ ・ We can ~.</p> <p>言語の使用場面 b: 生徒の身近な暮らしにかかわる場面 ・ 町紹介</p> <p>言語の働き c: 情報を伝える ・ 説明する</p>	<p>単元学習後の生徒の認識 小学生には、中学校で習った文法や単語が伝わらないことがあった。だから、相手に伝わっていないときには、別の表現に置き換えて、相手に合わせて表現を使い分けていかないといけないということが分かった。分かってくれたときは嬉しかった。</p>
--	---	--	--	---

本単元の評価規準 (評価方法)

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	【外国語表現の能力】	【外国語理解の能力】	【言語や文化に関する知識・理解】
<p>継続：①質問を織り交ぜて聞き手を巻き込むように話し続けている。 (活動の観察)</p>	<p>適切さ：②聞き手の立場や気持ち、場面や状況に応じて適切な表現を用いて話すことができる。 (活動の観察)</p>		<p>言語：③中学校第2学年 Lesson 5 までに学習する言語材料について正しく理解している。 (活動の観察)</p>

本単元の指導の概要

3 終末

<p>第4時 ねらい：自分たちが考える未来の笠原町について交流し、誰もが住みたく魅力あふれる笠原町について話し合う活動を通して、質問を織り交ぜて聞き手を巻き込むように話すことができる。</p> <p>クラスの仲間に伝えるように、未来の笠原町の発表をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末の活動の流れを理解する。 ・クラスで、小学生役と中学生役に分かれて、交流する。 ・同じテーマ同士でグループを作り、仲間の意見を取り入れながら、新たに未来の笠原町を考える。 ・伝わりづらかった表現を交流し、発表内容を改善する。 <p style="text-align: right;">評価規準…①</p>	<p>第5時 ねらい：自分たちが考える未来の笠原町について交流し、誰もが住みたく魅力あふれる笠原町について話し合う活動を通して、聞き手の立場や気持ち、場面や状況に応じて適切な表現を用いて話すことができる。</p> <p>小学生に伝わるように工夫して、未来の笠原町の発表をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで、小学生役と中学生役に分かれて、交流する。 ・小学生に伝わるようにするためには、どのような工夫が必要かを交流する。 <p style="text-align: center;"> ・ゆっくり話す ・強調する ・繰り返す ・確認する ・置き換える </p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流したことをもとにクラス内で発表し合う。 <p style="text-align: right;">評価規準…②</p>	<p>第6時(本時) ねらい：自分たちが考える未来の笠原町について小学生と交流し、誰もが住みたく魅力あふれる笠原町について話し合う活動を通して、相手の立場や理解に応じて、適切な表現を用いながら対話することができる。</p> <p>未来の KASAHARA を交流し、住みたくなるような町をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時学習した、小学生に伝えるためのポイントを確認する。 ・小学生と4人1組になり、それぞれの考えた町をプレゼンテーションする。 ・中学生が中心となり、4人の意見を取り入れながら、グループ毎に未来の笠原町を考える。 ・中学生と小学生が2人1組になり、考えた未来の笠原町を他のペアに発表する。 <p style="text-align: right;">評価規準…②</p>
--	--	---

2 中盤

<p>第2時 ねらい：未来の笠原町にあるといいもの考える活動を通して、これまで学習してきた表現を正しく用いて、メモを作成することができる。</p> <p>未来の笠原町にあったらいいなと思うものを考え、メモにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じテーマを担当する仲間と、未来の笠原町にあったらいいものを交流し、自分の考えをもつ。 ・メモを作成する。 <p style="text-align: right;">評価規準…③</p>	<p>第3時 ねらい：未来の笠原町にあるといいものや、その魅力について話す練習をする活動を通して、正しい表現を用いて話すことができる。</p> <p>未来の笠原町にあったらいいなと思うものやその魅力を正しく話せるようにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別のペアになり、正しく話すことができているかを確認する。 ・個人でイラストを用いて話せるように練習する。 <p style="text-align: right;">評価規準…③</p>
--	--

1 前半

<p>第1時 単元の導入 ねらい：小学生から「未来の笠原」について交流をしたいという依頼を受ける活動を通して、終末の活動のイメージをもつことができる。</p> <p>小学生が知りたいことは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生からの依頼を受け、終末の活動において、未来の笠原について、それぞれのアイデアを交流することを伝える。

5 本時のねらい 自分たちが考える未来の笠原町について小学生と交流し、誰もが住みたくなる魅力あふれる笠原町について話し合う活動を通して、相手の立場や理解に応じて、適切な表現を用いながら対話することができる。

過程	児童生徒の活動・学習活動	教師の指導・援助 ◆評価規準				
導入	<p>1. Greeting: あいさつをする。 2. Small Talk: 中学生と小学生で互いに自己紹介する。 ・中学生(J)と小学生(E)とで4人1組のグループを作り、その中でペアを組んで自己紹介をする。 J1: Hello. I'm Ken. Nice to meet you. E1: Hello. I'm Shin. Nice to meet you, too. J1: Where is your favorite place in Kasahara? E1: I like Chuo-Kouminkan. J1: Me too. Why do you like Kouminkan? E1: Because I can play table tennis. Do you like table tennis? J1: No, I don't. But I like badminton.</p>	<p>2.活動が進んでいないペアには、ヒントを示しながら表現を導く。</p>				
展開	<p>3. Today's Aim: 活動の流れを確認する。 未来の KASAHARA を交流し、住みたくなるような町をつくろう。</p> <p>4. Presentation Time: 自己紹介し合ったグループでお互いの町作りについてプレゼンテーションを行う。</p> <table border="1" data-bbox="203 496 1373 735"> <tr> <td data-bbox="203 496 1126 735"> <p>J: Look at this. This is ○○ Sports Kasahara. We have many stadiums in this town. For example, baseball, soccer, tennis and track and field. <u>OK?</u> In this town we can watch a sports game every day. The ticket is free. <u>Free.</u> <u>OK?</u> And we can try many sports from around the world. Yes. For example, kabaddi, crab soccer and cricket. Do you know kabaddi? 【 _____ は繰り返し、 _____ は確認】 What do you think of this town?</p> </td> <td data-bbox="1126 496 1373 735"> <p>E1 2: OK. E1 2: OK. E1: OK. E2: Really? E1: Yes. E2: I like it.</p> </td> </tr> </table> <p>5. Meeting Time 1: グループでミーティングを行う。 ・お互いに聞き合った未来の笠原町について意見交流を行い、プレゼンテーションの中から取り入れたいアイデアを選び、グループ内で新たな未来の笠原町を考える。</p> <p>6. Main Activity 1: 小学生と練り合った未来の笠原町について、中学生とペアになって他のペアと交流する。 ・小学生と中学生でペアを組み、自分たちが考えた町を他のペアに伝える。</p> <p>7. Sharing Time: 小学生と中学生に分かれて、それぞれ中間交流をする。 ・教師の話から、仲間の表現のよさや話し方の工夫を知り、次の活動への個人課題をもつ。</p> <p>8. Meeting Time 2: プレゼンテーションの仕方や内容について小学生と見直す。 ・中学生が主体となり、改めて相手を巻き込む(小学校のねらい) 表現や強調するポイントについて相談する。</p> <table border="1" data-bbox="203 991 1373 1342"> <tr> <td data-bbox="203 991 1106 1342"> <p>E1 J1: Hello! E1: This is ○○ Sports Kasahara. J1: This city has many stadiums. <u>Stadium.</u> <u>OK?</u> Ummm...big ground! 【 _____ 別の表現に置き換える】 For example, baseball, soccer, tennis and track and field. E1: All stadiums have a second-floor. J1: We can try many sports from around the world. For example, kabaddi, crab soccer and cricket. E1: Do you know kabaddi? And we have a special festival every week. J1: We can see special games and professional players. E1 J1: What do you think of this town?</p> </td> <td data-bbox="1106 991 1373 1342"> <p>E2, J2: Hello! J2: Sports city! OK. E2: No. E2: Oh, OK. J2: Nice idea. E2: Yes! J2: Oh! Great! E2 J2: It's nice town.</p> </td> </tr> </table> <p>9. Main Activity: さらに練り直した未来の笠原町について相手を替えて交流する。</p>	<p>J: Look at this. This is ○○ Sports Kasahara. We have many stadiums in this town. For example, baseball, soccer, tennis and track and field. <u>OK?</u> In this town we can watch a sports game every day. The ticket is free. <u>Free.</u> <u>OK?</u> And we can try many sports from around the world. Yes. For example, kabaddi, crab soccer and cricket. Do you know kabaddi? 【 _____ は繰り返し、 _____ は確認】 What do you think of this town?</p>	<p>E1 2: OK. E1 2: OK. E1: OK. E2: Really? E1: Yes. E2: I like it.</p>	<p>E1 J1: Hello! E1: This is ○○ Sports Kasahara. J1: This city has many stadiums. <u>Stadium.</u> <u>OK?</u> Ummm...big ground! 【 _____ 別の表現に置き換える】 For example, baseball, soccer, tennis and track and field. E1: All stadiums have a second-floor. J1: We can try many sports from around the world. For example, kabaddi, crab soccer and cricket. E1: Do you know kabaddi? And we have a special festival every week. J1: We can see special games and professional players. E1 J1: What do you think of this town?</p>	<p>E2, J2: Hello! J2: Sports city! OK. E2: No. E2: Oh, OK. J2: Nice idea. E2: Yes! J2: Oh! Great! E2 J2: It's nice town.</p>	<p>3.本時の課題と目指す姿を押さえる。小学生との対話であることを伝え、以下のポイントを板書する。 ○相手の目を見る ○ゆっくり話す ○強調する ○繰り返す ○確認する(相手が理解しているかを把握する) ○置き換える(相手が分からない表現を別の表現に変える)</p> <p>4.全員が自分の考えた町について説明できているかを見届ける。 【Presentation Time の流れ】 1. 小学生が2人1組でプレゼンテーションする。 2. 中学生Iがプレゼンテーションする。 3. 中学生IIがプレゼンテーションする。</p> <p>5.中学生が司会となり、小学生にも意見を聞きながら、最終的にどんな町にするかを決定する。 ・全員のアイデアの中から、取り入れたいものを選ぶ。 ・その後の Main Activity に向けて、中学生1人と小学生1人がペアになり、発表ができるように分担をする。</p> <p>6.中学生と小学生が2人1組を作り、自分たちが考えた未来の笠原を他ペアに発表する。</p> <p>7.中間交流では、成果や課題を交流し、その後の活動に生きるポイントを押さえて指導にあたる。 ・小学生を意識した表現を用いている生徒を紹介し、広める。 ・うまく活動が進められていない場合は、表現の確認をし、板書に位置づける。</p> <p>8.中間交流で学んだことを踏まえ、改めて話し方を工夫するように助言する。また、それを小学生に伝え、練習をする場を設ける。</p> <p>9.中間交流・ミーティングタイムで学んだことを踏まえ、ポイントを意識しながら対話活動が行っているかを見届け、支援が必要な場合には、改めてポイントを示しながら助言をする。 ◆評価規準 未来の笠原町について、相手の立場や理解に応じて、強調したり、繰り返したりして相手が理解しているかを確認したりしながら適切に対話することができる。 【外国語表現の技能(適切さ)】(観察)</p>
<p>J: Look at this. This is ○○ Sports Kasahara. We have many stadiums in this town. For example, baseball, soccer, tennis and track and field. <u>OK?</u> In this town we can watch a sports game every day. The ticket is free. <u>Free.</u> <u>OK?</u> And we can try many sports from around the world. Yes. For example, kabaddi, crab soccer and cricket. Do you know kabaddi? 【 _____ は繰り返し、 _____ は確認】 What do you think of this town?</p>	<p>E1 2: OK. E1 2: OK. E1: OK. E2: Really? E1: Yes. E2: I like it.</p>					
<p>E1 J1: Hello! E1: This is ○○ Sports Kasahara. J1: This city has many stadiums. <u>Stadium.</u> <u>OK?</u> Ummm...big ground! 【 _____ 別の表現に置き換える】 For example, baseball, soccer, tennis and track and field. E1: All stadiums have a second-floor. J1: We can try many sports from around the world. For example, kabaddi, crab soccer and cricket. E1: Do you know kabaddi? And we have a special festival every week. J1: We can see special games and professional players. E1 J1: What do you think of this town?</p>	<p>E2, J2: Hello! J2: Sports city! OK. E2: No. E2: Oh, OK. J2: Nice idea. E2: Yes! J2: Oh! Great! E2 J2: It's nice town.</p>					
終末	<p>10. Post Activity: 全体で感想を交流する。 ・Main Activity II でのアイデアを聞いて、良かった点やその理由を発表する。</p> <p>11. Evaluation: 本時の振り返りをする。 ・小学生とプレゼンテーションを練り上げる上で学んだことや、本時のポイントができていたかについて振り返りをする。</p>	<p>10.本時のねらいに即して、生徒の姿を例に出し、認めながらコメントする。</p>				